

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。

創世記 1 章 1～4 節に書かれた天地創造の最初の場面です。神さまは何よりもまず、光を創造されました。

またヨハネ福音書 1 章 4～5 節にはこう書かれています。

言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

このように聖書は、「光」とは神さまがつくられたものであり、またイエス様ご自身も光として来られたということを伝えます。

わたしたちが暗闇の中にいたとしても、神さまは光を与えてくださいます。クリスマス物語で羊飼いや博士たちが光に導かれたように、わたしたちの心にも光が届けられるのです。

これは我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。(ルカ 1:78～79)とある通りです。

そしてイエス様に従う人たちは、「光の子」と呼ばれます。神さまによって自分自身を輝かせるとともに、周りの人たちも照らすのです。

あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。(エフェソ 5:8)と言われた言葉を胸に、日々を過ごしていきましょう。

次回は「秘義」です。お楽しみに。



「世の光」

ウィリアム・ホルマン・ハント

(1827～1910年)

イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

(ヨハネによる福音書 8 章 12 節)

